



例年、各地区で開催していた11月の研修会の開催は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、見送らせていただきました。今回の青少年センターだよりは紙面を拡大して、青少年育成員の皆様から希望の多かったテーマについて、特集を組んでお届けします。

1. 「私」はつらいよ～不登校・ひきこもりについて現場から思うこと～
2. 「地域の親・子どもとのかかわりの中で」
3. 「自撮り被害」等のインターネットの危険から青少年を守るために

「私」はつらいよ～不登校・ひきこもりについて現場から思うこと

尹 智成（ユン ジソン）さん

みんなのカウンセリングルーム（YJ心理臨床事務所）代表

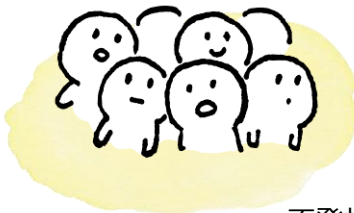


なんらかの理由によって、学校に行けない、外に出られない、と、家の中で悶々とした日々を過ごしている子供達や若者達は、福山市内にも結構いらっしゃると思います。

彼らはいろんなところで、「〇〇人、〇〇%」等といった、“カズ”として“オモテ”に出てくることはあっても、本当の意味で、“オモテ”に出てくることはそう多くはありません。

私達は、わりと忙しい日常の中で、“オモテ”に出てこれない彼らと接することは少ないですし、ましてや、彼らがどんな生活をしていて、どんなことに悩んでいるのかを想像することは、とても難しいことだと思います。

“忙しい私達”の中には、“なんとなく暇そうにおもえる彼ら”に対して、心無い印象さえ抱く人もいらっしゃると思います。



微力ながら臨床心理士として彼らと、そのご家族に接している筆者自身でさえも、今こうして、「私達は～」と文章を書いている時点で、その「私達」の中に、「彼ら」が含まれていないことに、ハッとさせられ、このよくわからない心の根深さと無自覚な悪意について考えさせられます。

不登校や引きこもりの話題に限らずですが、「なんらかの理由によって困っている方」について語るときや接するときは「想像力という優しさ」を大切にしたいと筆者自身、考えております。

筆者が、彼らと接していく中で、彼らの心のあり様や特徴について思うことは、大きく3つありました。

それは、（1）彼ら自身、「私達」の中に、加わりたい気持ちと、加わりたくない気持ちとが、行ったり来たりしながら心がゆれているということ、また、（2）この「私達」といったよくわからない存在の実態を掴めず、見えない圧力の中で、随分苦しんでいるということ、（3）その、「私達」の中で、いかに「私（らしさ）」を保っていくかについて悩んでいるということ、でした。

このような筆者の拙い分析をもって整理したことは、心理学の古典的な理論ですでに述べられているところでもあります。しかも、これは、「彼ら」といったある特定の方だけの話ではなく、「彼らを含む私達」全員に当てはまるものであり、それは、心と「私」のある種の危機、また、「成長の課題」であるとも言われています。これを、「アイデンティティの危機」と言います。

アイデンティティとは、端的に、「自分（私）は何者であるか」、また、「自分（私）はどう生きるのか」といった信念と“感覚”のようなものと言えます。前述した、「揺れ・苦しみ・悩み」の3点セットは、「彼ら」と表現される前から抱えているものであり、「彼ら」と表現される以降も、引き続き抱え続けて、逃げるできないジレンマみたいなものだったりします。





今も昔も、「私らしく生きること」は人が成長していくために、大切なことである一方、それは簡単なようで、とても難しい課題であるような気がします。また、なんらかの理由によって、「私らしく生きること」が難しい状況になっている人達もいます。おそらく、「彼ら」自身も、そのきっかけや理由をわからないことも多く、どうすれば、「私らしく生きられるのか」といった解決策を出すことは、専門家にとっても荷が重い「彼ら自身の課題」だったりもします。ただ、学校に行かなかったり、外にでなかったりすることで、辛うじて彼らは「私」を守り、必死で、「私らしく生きる」といった、実は、「私達」とまったく同じ課題に向き合っているのかもしれない。そのような想像力を働かせてみると、「私達」へのかかわり方も少しずつ変わってくるかもしれませんし、今も昔も、問われているのは、常に「私達」であり、「私」なんだと、筆者自身、日々そのことを考えながら、今「私にできること」をしていきたいと考えております。

皆さんも、まずは、「私にできること」から始めてみてください。



「地域の親・子どもとのかかわりの中で」

長澤 庸子さん

福山市中央青少年育成員協議会 会長



私が青少年達とのかかわり、親とのかかわりの活動に携わるようになって、かなりの年月を経てきました。自分の子どもが大事だから、周りの子ども達も大事。年を重ね、経験を重ねていくに連れ、私自身が子ども達、親たちによって成長させていただきました。

どのような心掛けで接していくか、声掛けをしていくべきか。見かけ、日頃の生活態度の悪い、いわば非行少年・少女達、世間から冷たい目で見られ、冷たい声を投げかけられ、増々心が壊れていく子ども達、またその子達の親達は、自分の子どもが悪い、子育てが悪いとわかっていても、毎日の様に周りの人から責められ続けることによってもうどうでもよい、誰とも接したくないと逃げ腰になってしまう。そんな時、一言優しい声掛け、優しい眼差しを投げかけてあげたら、ほんの少しでも心に温かさが芽生えはじめる。接する側の私の心掛け一つで変わっていつてくれることを学びました。



子ども達とは、常に笑顔で同じ目線で、遠目からでもそっと見守り続け、たまには私の手料理を食べさせて、いろんな話をし、楽しい時間を過ごす。親達には、「大変だよな。一緒に考えて、一緒にやって行こうかあ」と声掛けをしてあげることによって、親から笑顔が出て、自分の思いを話してくれ、そこから一緒に前に進んでいくことができました。

未だに電話をくれたり、子ども連れで訪ねて来てくれる子、自分の子どもについての悩みを話してくれる子、「おばちゃん居なかったら、今の僕はなかったよなあ。」と言ってくれる子、関わっていく過程では、色々大変な事も、何度も裏切られたことも。「またか。」とその度に気を取り戻し、気長にただ見守り続け、諦めず、根気強く、優しい言葉、優しい笑顔で。荒れている子、不登校になる子、親に反抗的になる子、そんな子をどう育てていったらいいかわからない親。それぞれに大変な事情を抱えているのです。

私達や地域の人達の優しい声掛け、見守り、寄り添いが必要。



ある少年が言いました。「おばちゃん。僕にいつまでかかわってくれるの？」私は「君が私を必要としている間はずっとよ。」今、彼は二児の親。未だに頼って来てくれます。

私達の活動は、必要とされる限り、未長く、根気強く、優しく見守り続けていく事、それによって、町が笑顔あふれる町になれるよう、手助けしていけたらと考えます。

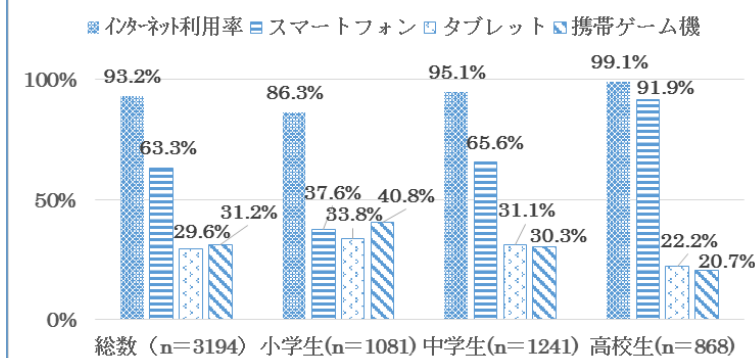
「自画撮り被害」等のインターネットの危険から青少年を守るために ～青少年のスマートフォン等の安心・安全な利用に向けて～

福山市青少年センターより



近年、スマートフォンなど多様なインターネット接続機器の登場により、様々な場所や端末からインターネットを利用でき、インターネット利用の場面や形態が変化しています。

インターネット利用率（機器・学校種別）



令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府）より

内閣府の調査によると、青少年の93.2%がインターネットを利用し、中でも高校生の91.9%がスマートフォンを利用しています。

青少年のインターネット利用内容は、学年によって変化があり、小学生はゲームと動画視聴が多く、高校生はコミュニケーションと動画視聴、音楽視聴が多くなります。

インターネット利用は、保護者と青少年が連絡を取りやすいことや、SNS（LINEやInstagramなど）による友達とのコミュニケーション、知りたい情報をすぐ調べられるなどの利点がある一方、SNSに起因した犯罪被害や有害サイトへのアクセス、ゲームでのコンテンツ課金などによる高額請求の可能性などの危険性があります。

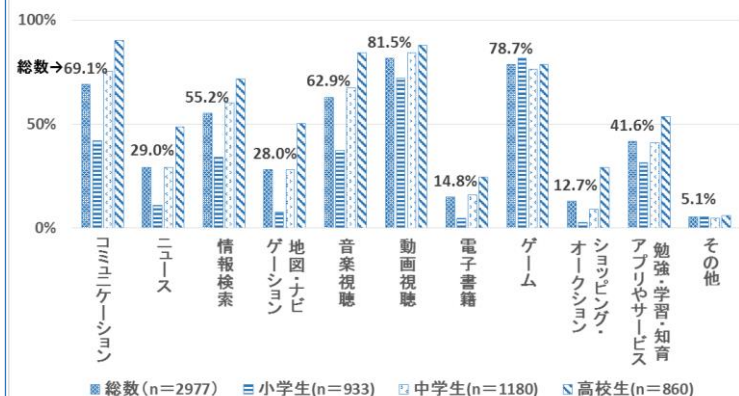
青少年のインターネットトラブルの事例の中で、「自画撮り被害」に遭うケースの増加が問題となっています。SNSで知り合った相手に騙されたり脅されたりして、自分の裸の写真を送ってしまうものです。中高生が被害を受けるケースが多いですが、小学生のケースも増えてきています。

SNSで知り合って親しくなった相手にしつこく要求されたり、同性になりすました相手から「自分も送るから送って」と言われ、自分の裸の写真を送ったら、ネット上に流されてしまったなどの被害に遭う例や、交際相手に頼まれて送ったものの、別れ話になったとき、「別れるなら裸の写真をばらまくぞ！」などと脅迫される事件などがあります。

一度ネット上に流出した写真は不特定多数の人に見られ、誰でも簡単にコピーができるため、削除することは、ほぼ不可能になります。

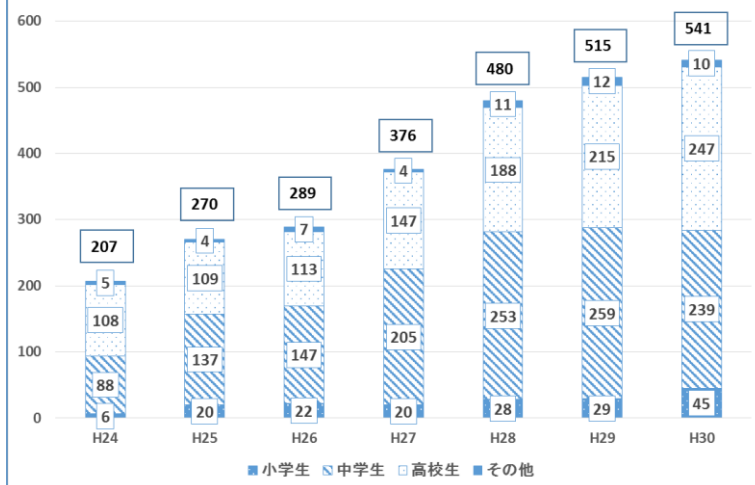
このような状況から青少年を守るため、青少年だけでなく、保護者などの大人も理解する必要があり、自分の裸を撮影しない、自分の裸の写真を相手に送らないといったことをしっかりと子ども達へ伝えていくことが重要です。また、そのような状況になった場合は、警察署等の相談窓口へすぐに電話することも重要です。

インターネット利用内容（いずれかの機器）



令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府）より

児童が自らを撮影した画像に伴う被害に遭った児童の推移



平成30年における子どもの性被害の状況（警察庁）より

これらのことを踏まえて、青少年が安心してスマートフォンを利用するために、次の3つの方法をご紹介します。

一つ目は「ペアレンタルコントロール」です。これは、子どもがスマートフォンを利用する際に、利用する時間や時間帯の調整、課金の制限等を行うことができるサービスです。これは、情報通信事業者やアプリ開発事業

者などからサービスが提供されています。

二つ目は、「フィルタリング」です。フィルタリングとは「フィルターを通す」という意味で、出会い系サイトや違法サイトなど、子どもが接するべきではない不適切なサイトやサービスなどを通さず、安全な情報だけを通すサービスです。スマートフォン本体で設定したり、携帯電話会社でフィルタリングサービスを受ける、フィルタリング機能を備えた専用アプリを利用するなどの方法があります。

三つ目は、「ルールを作ること」です。子どもと保護者でスマートフォンの利用についての利用場所や時間帯などについて、保護者から一方的に押しつけるのではなく、子どもと一緒に話しあって決めることが大切です。また、時折子どもが問題を抱えていないか確認することも大切です。

青少年を取り巻く環境は日々変わっています。保護者の方はもちろんのこと、日頃地域で青少年を見守ってくださっている方々などにも状況を知っていただき、引き続き地域全体で見守っていきたいと思っています。



指導員の窓

「今時の若い者は」「子供のモラルが低下している」等の指摘は、いつの時代でも言われている。

大人が眉をひそめるような子どもたちの言動も、当の大人が若い頃に行動してきた場合もあるし、価値観の相違から摩擦を生じる原因となる言動も、やがて時代の流れとともに社会に受け入れられることも少なくない。

しかし、今の若者たちを取り巻く環境と、いわゆる『大人』といわれる人たちが育ってきたかつての環境の決定的な違いは、インターネット社会の存在だと思う。私たちが若いころに出始めたコンピューターが、パソコンとなって急激に広まり、さらに携帯電話が普及してきたかと思えば、あっという間にスマートフォンが主流を占める情報化社会に変わってきた。

今や、小中高等学校・大学では当然のようにインターネットを利用した学習が進められ、一般企業の業務でも必要不可欠なものとなっている。最近は、親が0歳児にスマホを渡して遊ばせることもあるらしい。



若者たちは、ネット社会の中で、メールだけで会話したり、瞬時に情報を共有・発信することができ、映像や動画であらゆることが視覚的に理解できる。わからないことがあっても検索機能を駆使して調べれば、先生や周りの大人に聞く必要はないし、たくさんのことを覚えておく必要もなくなっている。

コロナ禍の中で、ネット環境はますます進んでいる。それは決して悪いことではないが、さて、そういった中で若者たちに、『温かい人間関係を構築する力』や、『自他の生命尊重の精神』、『正義感や規範意識の向上』等をどう身に付けさせる関わりができるか、きっと誰もその答えを持っていないのではないかと思います。大人がそれを考えている間にも、ネット社会はどんどん進化し、若者たちは変化している。

はたして私たち大人は、この状況にどのように対応できるのでしょうか？（宇田）

エフピコ RiM ふくやまの閉館に伴い、福山市青少年センターは9月7日から草戸町（旧福山市体育館横）に移転しました。駅からは少し遠くなりましたが、毎朝指導員による駅補導は継続しています。



編集後記

澄んだ夜空を見上げると、月と星座の綺麗な季節になりました。猛暑の中、マスクをつけての通学を心配しながら通勤していたのがウソのようです。毎朝の通勤時に、見守り隊の方が笑顔で手を振ってくださると、心が温かくなり、まだがんばれるな、と癒されます。同じように子どもたちも声かけをしてもらうことによって、温かさのギフトをもらっていることと思います。引き続き子ども・若者の見守りをよろしくをお願いします。（安福）

発行者 福山市青少年センター 福山市草戸町5-12-3（青少年・女性活躍推進課内）
電話 084-928-1046 Fax 084-927-9121 seishounen-josei@city.fukuyama.hiroshima.jp